

愛小成しきべき一話あり、所ハ西京五條あり、
 若宮八幡の近傍ニ夫婦暮し一の茶碗画師、
 名も茶楽らの十話喧嘩、春ぞ酒の十六夜
 紛れ女房をむいての去草ハ己ら茶碗の
 癖、いも毛も事、を焼付る筋も
 模様も分らぬヤツ、藍も濃も
 さの果、組青の悪い女の
 と、お女房もヤツキ、おかり、
 糸尻癖の悪いのを、だまつ
 て居れば、土器や、
 小猪口あんど
 やつまみ出す、
 とうとうて
 煙が、置けり
 つかの邊が、ぶり付、いもやうたいと、ヤツサモツサの
 大騒ぎ場へ、兼てや側ニ有合、鏡おつ返て、
 一かうて、バキ処、悪う、と、や女房ハ、
 其、終息、絶えりと、と、と、ぞ此鏡ハ、



新聞圖會

第廿九号



照一

つつと打擲と
 夫婦喧嘩と

茶碗画師

西平三
 以在善報